

かしわ



No. 9 平成28年10月7日 校庭のザクワ

折り返し点

校長 北村 耕一

平成28年度の前期が本日で終了します。4月から本日まで本校の教育活動に理解と支援をしていただきました保護者の皆様、地域の皆様、親の会・学校評議員をはじめとする本校に関係する皆様に感謝申し上げます。

表題の「折り返し点」…昔、私は同じ語彙が題名となっている本を読みました。著者は、今は引退されていますが、宮崎駿さん…スタジオジブリの監督さんです。

この本は、映画の作品でいえば「もののけ姫」(1997)から「崖の上のポニョ」(2008)までの期間の、宮崎さんの言葉が集められています。本の中で宮崎さんは教育について次のように述べています。

「自然は有限だっていうことは、子どもたちは知識として知らなくても、本能で知ってます。自分たちが祝福されてないということも。自分たちが生まれたこの世界は、ああ、生まれてきてよかったですねって温かく迎えてくれるんじゃないかって、お前たちはやばい時代に生まれたぞとっている。だから世界っていうのはやばいところだって思って生まれてますよ。いまの子どもたちのなかにいちばん大きく植えつけられているのはそれだと思います。だから、なおさらちゃんと、それでもいいところがあるはずだと、こういうふうな感じ方や見方を味わうことができるんだということをおとながいちばんやるべきなんだと思っています。」

一読すると難しいのですが、何回か読み直すと今の時代にも言えることかなと思えてきます。

子どもが生きていくこれからの社会は、将来の変化を予測することが困難な時代になると言われています。

次期学習指導要領は、「自らの生涯を生き抜く力を培っていく」ことが問われるなか、学校教育で子どもに準備させる「力」を示すものになると思います。

平成28年度の本校の教育の折り返し点を迎える中で、私たちおとなが、雑学的(=教科横断的)に現代社会=世界を伝え、多角的なものの捉え方ができることを「自ら範を示して」教えていくことが大切だと思いました。

5日間の秋休みですが、ご家庭では学校では体験できないことを学ばせていただきたいと思います。私たち教職員は後期の教育活動に向けての準備をします。

本日、終了式で話しましたが、「健康を大切に」して13日には元気に登校してきてもらいたいと思います。

ろう学校を支える縁の下の力持ち ~事務室の仕事~

事務主事 福西 千聖・廣瀬 成美・西川 恵太・山本 明子

こんにちは、事務室です。前年度から引き続いての福西、山本と、今年度から新採用の西川、田戸小学校から廣瀬が着任し、新しい4人のメンバーで、日々、仕事をしています。

事務室の仕事内容は、色画用紙や模造紙等の幼児・児童・生徒の授業に必要な物品の注文や、行事等の花の発注や受付、先生方の給与や服務のこと、幼児・児童・生徒のご家庭に関わる就学奨励費のことなど、多岐に渡ります。皆様の目に見える内容は少ないですが、日々、学校の円滑な運営をサポートできるよう、「縁の下の力持ち」を目標として、仕事を進めています。就学奨励費等で、何かご不明点があった際は、お気軽にご相談ください。

事務室は、幼児・児童・生徒と直接的に関わる機会は多くはありませんが、事務室に教材を取りに来たときの

「ありがとうございます」という元気な声や、給食や休み時間などの楽しそうな笑顔が、いつも私たちを明るい気持ちにさせてくれます。これからも幼児・児童・生徒が日々の学校生活を楽しく送り、勉強に励めるよう、また、先生方のサポートができるよう、4人で協力して頑張ります。

今後とも、宜しくお
願い致します。

似顔絵は廣瀬
さんが描いて
くれました。



中高等部のキャンプ日記

教諭 竹花 康太郎

台風の影響により1週間ほど雨が続き、天候が心配されたキャンプですが、無事に行うことができました。欠席者もなく全員が楽しく参加できたことが何よりも良かったと思います。

1日目の午前中に降っていた小雨も昼過ぎにやみました。生徒の安全を考えてウォークラリーを中止にし、代わりにキャンドゥづくりを行いました。自分の好きな絵を直径5センチほどの丸い木に上手に描いていました。ウォークラリーは夏休み明けに学校で事前学習として経験しているので、両方とも体験できたことがたいへん良い経験になりました。

皆で汗を流して作ったカレーはとてもおいしくて、お代わりをしながら美味しく食べました。生徒が事前にキャンプファイヤーのときに歌う手話ツグの練習をしていたので、自信をもって歌うことができ、とても盛り上がりました。

また、入浴後は生徒へサプライズバーガーパーティーを実施し、みんな大いに盛り上がりました。

翌日は清掃活動・退村式を終え、帰路につきました。往復の電車やバスの利用で公共交通機関の使い方を学ぶこともでき、またふれあいの村



のスタッフの方へ挨拶などといった礼儀なども身に付けることができる良い機会となりました。

生徒は2日間の宿泊活動を通して、他人と協力し合うことの大切さや支えてくれている人たちへの感謝の心を十分に学ぶことができたことと思います。

小学部の宿泊学習日記

教諭 川島 佳祐

9月16日と17日に野島青少年研修センターに行ってきました。初日は、あいにくの雨だったので干潟体験は取りやめ、横浜・八景島シーパラダイスの見学をしました。子どもたちは、予定が変更になったにも関わらずひさしぶりのシーパラに大はしゃぎでした。次から次へと現れる魚や海獣類に興奮し、前へ進んで行ってしまう子どもたち。普段なかなか見ることのできない姿にうれしくなりました。

そんなぐちゃぐちゃな水族館の中で、ある児童は小さなクラゲやイギンチャクに心を惹かれたようです。現在、国語の授業でイギンチャクが出てくる教材を指導しています。普段の授業がこんなところで活かすことができ、うれしく感じました。

さて、初日はナイトワークが最大の山場でした。カレーライスを作った後、野島山に登りました。実は、学校でナイトワークの事前指導をした際、「いやだ。行きたくない。」と言っていた児童がいて、すこし不安な面がありました。しかし、いざ始まると懐中電灯の光を顔に当て、おばけごっこをしてしまうくらいわくわくしている様子でした。頂上付近では、おばけ役になってくれた教師もいて、子どもの心にはナイトワークの体験が強く残ったようです。



今回は、食事の準備やレクリエーション活動、身支度など初めての体験が多く、不安や戸惑いもあったと思います。しかし、そんなことを感じさせないくらい立派に研修を終えることができました。今後はさらに自主自立の精神を養い、来年の修学旅行に繋げてほしいと思います。